

リニア中央新幹線事業に係る関係市町村長と JR 東海との意見交換会 概要版

建設部リニア整備推進局

1 日 時 平成 29 年 12 月 26 日 (火) 15:00~17:15

2 場 所 飯田合同庁舎講堂

3 出席者

- <市町村長等> 飯田市、下伊那郡 13 町村、中川村、南木曾町、南信州広域連合
- <長 野 県> 建設部リニア整備推進局長、南信州地域振興局長、飯田建設事務所長
- <JR 東 海> 宇野 護 取締役 専務執行役員 中央新幹線推進本部長 他 4 名

4 会議内容（発言要旨）

①県道松川インター線への土砂流入（12月15日発生）対応について

【長野県】

- ・今回の土砂崩落は、「重大な問題」と捉えている。
- ・地域から「ガソリン供給不足」や「宿泊キャンセル」、「迂回路に対する不安」など切実な声。
- ・当路線は、地域にとって生命線。安全性向上が大きな課題としてきた意味を JR 東海は再度認識いただきたい。
- ・仮設迂回路の早期供用と通行中の安全確保、現道の早期復旧を強く願う。
- ・地域住民・県外の方々に対し適確な情報提供・メッセージの発信をお願いする。
- ・早期復旧や再発防止策に向け、JR 東海には現在も対応してもらっており、今後の対応方針も示してもらっている。今後も安全に十分配慮して進めてもらいたい。

【市町村意見】

- ・当路線は生命線。一刻も早い開通をお願いしたい。迂回路の松川大鹿線は、急カーブ、日影、冬場の雪、凍結への対応をお願いする。（松川町）
- ・もうちょっとの気遣いが足りなかったと思う。村に来る苦情は JR をお願いする。（大鹿村）
- ・崩落が昼間なら大事故。二度とないようお願いしたい。県は、道路管理者の責任でしっかりやっていたらいい。（中川村）

【JR 東海回答】

- ・県道への土砂流入に伴う通行止めで、関係する皆さまには大変ご迷惑をおかけしている。申し訳ないと思っている。
- ・詳細は調査中であるが、当社が発注している四徳渡トンネル工事の発破等による振動が繰り返して作用したことにより、トンネル直上の地山が緩み、土砂流入に至ったものと考えている。
- ・応急復旧の計画については、まずは、12月29日に片側交互通行として一般車が通行できるようにし、その後約1か月で暫定復旧させていただく計画。さらに、四徳渡トンネルを早期に完成し、関係の皆様安心して通行いただける状況にしたい。
- ・トンネル坑口付近は注意を要する箇所と承知しており、施工業者も対策をして進めてきたと思うが、地山の状況がそれよりも厳しいもので、さらに対策が必要であったものと考えている。
- ・工事を安全に進めていくことについては、これまでも申し上げてきたことであるが、施工業者を含めて改めて徹底していく。

② 各市町村の懸案事項への対応

●環境対策への対応

【市町村意見】

- 座光寺地区防音防災フード等対策の回答が示されない。防音防災フードを整備し、防音対策を確実に実施していただきたい。（飯田市）
- リニア駅西側のトンネル計画・掘削工法・運搬路について、地域住民の意見を踏まえ提案を早期に示していただきたい。（飯田市）
- 工事や運搬車両の通行に伴う住環境への影響の低減や交通安全対策など、地域と合意形成の上、着実な対策を講じていただきたい。協定、確認書は、締結に向けてこれから。（飯田市）
- 妻籠水道水源保全地区における県環境審議会の回答内容に従った履行と万が一にも備えていただきたい。（南木曾町）

【JR 東海回答】

- 地域の方からフード化の要望があることは承知している。要望があることをしっかりとお伺いしたうえで、騒音対策としては音源対策、個別家屋対策、土地利用対策を現地の状況に応じて進めていくと当社としては考えており、引き続き調整をさせていただきたい。

【長野県】

- 飯田市の防音対策、騒音対策は、知事に座光寺地域の皆さんから直接話しがあり、知事からもJR東海にしっかり伝えていく。

●発生土置場と運搬ルート of 丁寧な説明と早期確定

【市町村意見】

- 広域的な運搬路は、私どもの要望を受け入れてくれ感謝している。（飯田市）
- 【松川町】
 - 発生土を受け入れることで地域の活性化にどう結び付けていくか、3つの地区が集まり話し合いを行う予定。そうした中でJR東海の図面を提案いただき、そこから初めてスタートと思っている。
 - 地域の住民の気持ちに沿った丁寧な説明に、なお一層努めていただきたい。
 - 受け入れる側の皆さんは、「安全の担保」、「下流域へ迷惑を掛けない」、「情報が欲しい」、「住民に沿った対応」という気持ちを持っている。
 - 地域が2つに割れることがないようにお願いしたい。
 - 発生土のリスク分散として、「ガイドウェイヤード」と「道路改良」へ発生土を利用する。JR東海の協力をお願いする。
 - 工法確認、スケジュール等、どういう形で進むのか示して欲しい。
 - 大鹿村から村外に出る実際の発生土の量も情報として提示して欲しい。
- 発生土置き場は、下流域を含め、この工法で大丈夫というお墨付きをもらえると安心する。（阿智村）

- ・発生土置き場は、村とコンタクトをとり、ボタンの掛け違いのないよう最低月1回の打合せを同じ歩調でお願いしたい。（下條村）
- ・発生土を埋める期間は長い。情勢変化への対応をしてもらいたい。（下條村）
- ・地元の意見要望を活かす努力と納得のできる形で進めていただきたい。（南木曾町）
- ・半の沢への発生土利用は、安全が確認できれば反対するつもりはない。あせって進めて欲しくない。地元合意と並行して進め、置き場を早く決定して欲しい。（中川村）

【JR 東海回答】

- ・飯田・下伊那地方では、過去に36災害のような大きな被害の経験があり、地元の皆様の不安が大きいことは、十分に認識している。引き続き、地元のお話しをよくお聞きしながら、丁寧に進めてまいりたい。

【長野県】

- ・安全、安心の担保については、県で許認可を持っている法令に関し係わっていく。
- ・大鹿村で新たな本置き場を考えていただき、大変努力をしていただいた。
- ・大鹿村の300万m³が松川町に来ると心配している方もいるが、大鹿村で軽減の努力をいただいている。
- ・中川村半の沢は、発生土搬出のリスク軽減、道路の安全性を道路管理者として検証。

●工事状況に則した情報発信

【市町村意見】

- ・顔の見える対応、些細なことでも情報発信してもらいたい。（阿智村）
- ・住民は放っておかれるとストレスが溜まる。高架橋のイメージ、高架橋下の利用方法、移転スケジュール、ガイドウェイヤードの盛土搬入時期の提示をお願いしたい。（喬木村）
- ・早めに情報を欲しい。説明と説明の間が長過ぎる。前向きな姿勢でお願いしたい。（豊丘村）

【JR 東海回答】

- ・今まで以上にコミュニケーションを密に取っていく。

③ JR 東海の現地体制の更なる充実

【市町村意見】

- ・現地の社員は、一生懸命取り組んでいる。JR社員の増員をお願いしたい。（大鹿村）
- ・県を跨いだ情報の共有ができていない。工事状況等を随時説明できる体制の構築及び専門職員の配置をお願いしたい。（南木曾町）

【JR 東海回答】

- ・体制については、これまでも増強してきており、有能なメンバーを揃えている。今まで以上にコミュニケーションを図っていく。今後の体制についてはこれからの検討。

④ 地域振興への協力

【市町村意見】

- ・地元事業者の活用や受注機会の拡大など、積極的に取り組んでいただきたい。（飯田市）
- ・JRバスでの周遊ルートの検討など、観光の提案をお願いしたい。（阿智村）
- ・JR 東海ツアーズから我々が気のつかない、地域のプロモーションの仕方を提案、阿智屋神観光局や南信州観光公社と定期的な懇談できる場があるとよい。（阿智村）
- ・飯田線への乗換新駅は「請願駅だから皆さんで」ではなく、積極的に取り組みをお願いしたい。（泰阜村）
- ・天竜峡から中部天竜まで電車が走らない時間がある。利便性の確保を要望。土木建設小売業者を含めた活用もお願いしたい。（泰阜村）
- ・信州 DC では木曾地域の積極展開に感謝。木曾地域との意見交換会の場を設けていただきたい。（南木曾町）
- ・リニア対策委員会の報償費用について負担をお願いしたい。（南木曾町）

【JR 東海回答】

- ・阿智村とタイアップした観光宣伝等々やってきている。引き続き取り組んでいきたい。

⑤まとめ

【長野県】

- ・4月の会議と比べるとだいぶ具体的になり、一歩進んだ会議になったという印象。
- ・市町村は、自前の予算で対策、調査費を組み対応に大変苦勞している。JR 東海は、是非お汲み取り頂きたい。
- ・今回それぞれの意見に対して全部ではないが、一定の考え方を JR 東海に示して頂いた。
- ・今後もこういった機会を必要に応じ設けていく。
- ・頂いた意見は、県でまとめトップ会談において形にしていきたい。具体的な時期は、調整中。